



鹿児島日英協会 ニュースレター

The Japan British Society of
Kagoshima Newsletter

第9号

No.9 September 2018

会長ごあいさつ ~ニュースレター第9号発行に寄せて~

鹿児島日英協会の活動に関しましては日頃よりご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

当協会では昨年度に引き続き、メイン事業として英国での留学経験、旅行等の思い出や、英国に寄せる思いを英語又は日本語で綴る「エッセイコンテスト」と、英国研究や日英交流に尽力されている方々を講師にお招きしての青年部主催の「Bimonthly 英国研究会」を開催し、多くの会員並びに市民の方々にご参加いただきました。

今後は上記事業に加え、会員が気軽に集い英国への理解をより深める機会となるような新たなイベントも企画し、英国との更なる相互理解、交流・友好親善に取り組んでまいります。

今後とも引き続き、当協会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

鹿児島日英協会会長 酒瀬川純行（志學館大学人間関係学部・教授）



目 次

- ① 青年部主催『Bimonthly 英国研究会』のご報告 P.2- 4
- ② 青年部主催『Pub Quiz』イベントのご報告 P.5
- ③ エッセイ【1】 P.6
- ④ エッセイ【2】 P.7
- ⑤ イギリスひとくちメモ P.8

① 青年部主催『Bimonthly 英国研究会』のご報告

昨年度に引き続き、青年部主催『Bimonthly 英国研究会』を3回実施いたしました。日本とイギリスに精通した講師をお招きし、英国の歴史や文化、英会話等をテーマに実施する研究会です。今回の講師のかたがたは皆様当協会の会員様でした。改めまして、お忙しい中ご協力賜り誠にありがとうございました。

【1】 日時：平成30年4月21日（土）14時～

会場：薩摩英国館（鹿児島県知覧町郡13746-4）

講師：田中京子様（鹿児島日英協会会員 薩摩英国館館長）

テーマ：幕末と紅茶

本年度初のBimonthly英国研究会は、薩摩英国館で開催されました。今回のテーマは『幕末と紅茶』とのことで、美味しい紅茶をいただきながら田中様のお話を聞かせていただきました。紅茶の製造過程のお話などもお聞かせくださり、とても興味深い内容となりました。

日英友好協会の会長も務めていらっしゃる、イギリスへ何度も渡航歴のある田中様のお話はイギリスをととても身近に感じさせていただけるものばかりでした。また、「夢ふうき」という紅茶を製造されているらしく、茶葉の栽培を始めたころの苦労話や、イギリスのお茶のコンテストで金賞を取られたというお話もお伺いしながら頂く紅茶は格別でした。当日も朝から紅茶の製造をされていたそうで、出来たての紅茶の香りも味わえました。

（事務局 鶴田悠里子）



鹿兒島日英協会青年部 主催
Bimonthly 英国研究会
2018年 参加費 無料
4月21日(土)
14時～15時(受付 13時半～)
会場: **薩摩英国館**
鹿児島県知覧町郡13746-4
www.satsuma-ikokukan.jp
講演テーマ: **「幕末と紅茶」**
～紅茶の歴史について～
講師: **薩摩英国館館長 田中京子氏**
(日本紅茶協会認定 ティーチングマスター)
※駐車場あり
能力がありますので、できるだけ乗り合わせの上
お越しいただきますようお願い申し上げます。
ご希望の方は
薩摩英国館の紅茶を
飲みながらどうぞ♪
(紅茶はご自身でお求めください)
●お申込みは鹿児島日英協会事務局まで●
MAIL: jbskagoshima@yahoo.co.jp / TEL: 099-812-8501



【2】 日時：平成30年6月2日（土）14時～

会場：よかセンター第四会議室（鹿児島市中央町1番地）

講師：古木圭介様（鹿児島日英協会 理事会員）

テーマ：英国と冒険～英国人のチャレンジ精神に学ぶ～

鹿児島（薩摩）と英国について歴史を交えながら講演が始まりました。その後は古木さんの経験談を元に写真を交えながら分かりやすく説明がなされました。その中で特に聴き入ってしまったのはエベレスト登山挑戦の話です。エベレストは「サガルマータ」や「チョモランマ」などの異名を持っていて、何人ものイギリス人がエベレスト登山への挑戦を行う中で危険を冒して登頂を目指していました。登山家の写真が出発前に撮った写真にはチャレンジ精神に満ちた自信満々な表情等が見えました。

エベレスト初登頂までにイギリスは幾度も遠征隊を出発させたのですが、断念を余儀なくされました。このチャレンジには行方不明になったり、遺体で発見されたりなど命がけのものであり、驚きを隠せないものでした。

エベレスト初登頂を制したのは1953年イギリス、ジョン・ハント隊による登頂であり、その後も数々の挑戦者たちが山頂を目指し命がけで挑戦していました。日本人も挑戦している方が多く、日本人初登頂者である松浦輝夫氏・植村直己氏など数々の著名人が挑戦しています。中には80歳を超える挑戦もあり、高齢でありながらも何度も登頂を果たす方もいたので驚きました。著名人の中には古木さんの知り合いが多く、よりリアルな話が聞け、大変勉強になりました。

（青年部 神田浩之）

鹿児島日英協会 青年部主催
Bimonthly 英国研究会
古木 圭介氏講演「英国と冒険」
～英国人のチャレンジ精神に学ぶ～

無料

日時
平成30年6月2日(土)
14:00～(60分程度)

会場
キャンセル 7F
よかセンター第4会議室
(鹿児島市中央町10番地)

【古木圭介にだけ聞け!! 経験談】

- ・1942年7月生まれ、大分県津久喜、元英領地(現)鹿児島市中央町10番地。
- ・経歴
1963年(高1)～1967年(高3) 鹿児島県立津久喜高等学校(現)鹿児島県立津久喜高等学校
1967年(大1)～1970年(大3) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1970年(大3)～1973年(大6) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1973年(大6)～1975年(大8) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1975年(大8)～1977年(大10) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1977年(大10)～1979年(大12) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1979年(大12)～1981年(大14) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1981年(大14)～1983年(大16) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1983年(大16)～1985年(大18) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1985年(大18)～1987年(大20) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1987年(大20)～1989年(大22) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1989年(大22)～1991年(大24) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1991年(大24)～1993年(大26) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1993年(大26)～1995年(大28) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1995年(大28)～1997年(大30) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1997年(大30)～1999年(大32) 鹿児島大学 経済学部 経済学
1999年(大32)～2001年(大34) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2001年(大34)～2003年(大36) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2003年(大36)～2005年(大38) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2005年(大38)～2007年(大40) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2007年(大40)～2009年(大42) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2009年(大42)～2011年(大44) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2011年(大44)～2013年(大46) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2013年(大46)～2015年(大48) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2015年(大48)～2017年(大50) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2017年(大50)～2019年(大52) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2019年(大52)～2021年(大54) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2021年(大54)～2023年(大56) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2023年(大56)～2025年(大58) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2025年(大58)～2027年(大60) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2027年(大60)～2029年(大62) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2029年(大62)～2031年(大64) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2031年(大64)～2033年(大66) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2033年(大66)～2035年(大68) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2035年(大68)～2037年(大70) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2037年(大70)～2039年(大72) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2039年(大72)～2041年(大74) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2041年(大74)～2043年(大76) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2043年(大76)～2045年(大78) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2045年(大78)～2047年(大80) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2047年(大80)～2049年(大82) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2049年(大82)～2051年(大84) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2051年(大84)～2053年(大86) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2053年(大86)～2055年(大88) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2055年(大88)～2057年(大90) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2057年(大90)～2059年(大92) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2059年(大92)～2061年(大94) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2061年(大94)～2063年(大96) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2063年(大96)～2065年(大98) 鹿児島大学 経済学部 経済学
2065年(大98)～2067年(大100) 鹿児島大学 経済学部 経済学

お申込み
お問い合わせ
鹿児島日英協会事務局(下記メールアドレスへ)
ibsakagoshima@yahoo.co.jp

初めての方もお気軽にご参加下さい!!



【3】 日時：平成30年8月11日（土）10時半～

会場：よかセンター第四会議室（鹿児島市中央町1番地）

講師：松尾千歳 様（鹿児島日英協会 理事会員）

テーマ：薩摩とイギリス

3回目となった今回は、尚古集成館館長である松尾様にご講演いただきました。薩摩と外国人との闘争や、薩摩スチューデントのメンバーにまつわるお話など史実にまつわる大変有意義な内容となりました。

今年の大河ドラマ『西郷どん』でいくつかの薩摩にまつわるエピソードをご提供されたという松尾様のお話は、いままで全く知らなかったとても興味深いものばかりでした。特に驚きだったのは薩英戦争の発端となった大名行列を横切ったイギリス人が薩摩の志士に斬り殺されたといういわゆる生麦事件について、イギリスの新聞社がのちに日本の習わしを重んじなかったイギリスにも落ち度がある、という内容の文書があったということでした。薩英戦争和解後も、どこかでイギリスがいまでも薩摩をあまりよく思っていないのではと思ってしまうそうですが、イギリスも冷静にこの事件の事をみていたのだという気がしました。

（事務局 鶴田悠里子）

鹿児島日英協会 青年部主催

Bimonthly 英国研究会

講演 「薩摩とイギリス」

参加費 無料

日時
2018年8月11日(土)
10:30~11:30

場所
キャンセビル 7F
よかセンター第4会議室
(鹿児島市中央町10番地)

講師 松尾千歳 氏(尚古集成館 館長)



1960年 福岡県生まれ
1979年 鹿児島大学法文学部人文学科入学
1983年 鹿児島大学法文学部人文学科卒業(日本史学)。
尚古集成館に入館。
現在 尚古集成館館長、鹿児島大学・鹿児島国際大学非常勤講師。

【著書】
『島津家おもしろ歴史館』 尚古集成館 1991年3月31日
『鹿児島島の歴史』(共著) 山川出版社 1999年8月25日
『島津実徳の挑戦 一集成館事業一』(共著) 春秋堂出版 2002年3月20日
『薩摩藩の戦術 一海を見ていた殿様たち一』(共著) 尚古集成館 2012年7月21日
『西郷隆盛と薩摩(人を知る)』 吉川弘文館 2014年2月14日
『島津実徳』 戎光祥出版 2017年7月10日 など

【論文】
『近代化と在米技術 一集成館事業を支えた薩摩の在米技術一』
(鹿児島地域史研究会「鹿児島地域史研究」4 2007年10月3日)
『薩摩人の身長と食文化』
(『尚古集成館紀要』第13号 2014年3月31日)
『西南戦争と集成館』
(『尚古集成館紀要』第16号 2017年3月31日) など

島津家の歴史・文化、特に幕末の技術史を中心に調査・研究を行っている。

お申込み先
jbskagoshima@yahoo.co.jp (鹿児島日英協会事務局)



② 青年部主催『Pub Quiz』イベントのご報告

日時：平成30年3月24日（土）19時半～

会場：BIG BEN（鹿児島市中央町1番地）

本年度初めて当協会青年部主催で『Pub Quiz』イベントを実施いたしました。Pub Quizとは、英国をはじめとする海外のパブやバーで行うクイズイベントです。数名のチームで参加し、出題される問題の答えをチームで解答用紙に書いていきます。最後に答え合わせをし、優秀チームは賞品などを手にすることが出来ます。今回は4人チーム制とし、賞品として1位にはイギリスの紅茶、2位にはチョコレート、そして3位には木製のスプーンを準備しました。

実際のパブクイズを経験している英国出身の青年部会員Daniel Phillipsさんと青年部会長の狩所貴久さんを中心に準備を行い、会場は天文館にあるBIG BENさんにご協力をいただきました。

当日は30名を超える多国籍の参加者が集まりました。いまでは知らないことは携帯電話で検索するのが主流になっているようですがイベント中はカンニング禁止としましたので、問題がスクリーンに映し出されるたびにチーム内で答えを話し合ったりするなども大盛り上がりでした。

（事務局 鶴田悠里子）



③ エッセイ【1】

「イギリス文学のひそやかな愉しみ」

大好きなイギリス文学を語るにはあまりにも奥が深く限られた紙面では語り切れない。下手をすると作家名の羅列で終わってしまいそうである。そこでかつて高校に勤務していた頃のイギリスの作家にまつわるエピソードを二つ紹介しよう。

まずは「シェイクスピア全集」。シェイクスピアの研究者として有名な小田島雄志氏が翻訳を手掛けた白水社の全集は全37巻である。ある日、図書館でこの全集を手にとると、ブックカードに女子生徒の名前が記されている。現在の図書館は大半がバーコードによる貸出しのため個人情報を守られているが、昭和60年代当時は誰がその本を借りたのか本に挟まっているブックカードで一目瞭然だった。まさかと思いながら次から次へと本を開くと全作品に彼女の名前が記されているのではないかと驚いたことに全作品読破であった。後年、シェイクスピアの故郷ストラットフォード・アポン・エイボンの街並みを散策しながら、思わず彼女のことを思い出したことがあった。

次に紹介するのは、昼休みに毎回同じ書架の前で一冊の本に読み耽っている医学部志望の男子生徒のお気に入りの本の話。聞けばイギリスの医者から作家に転向したA・J・クローニンの自伝的小説「城砦」を読んでいるとのこと。実は私自身も夢中になって読んだ作品である。三笠書房から出版された黒い表紙の全集には著者のサインが確か刻印されていた。くだんの男子生徒いわく「大好きなこの小説が翻訳者でどう文体が変わるのかと思って読み比べている」とのこと。読書家ならではの楽しみ方である。彼は受験の際この本が大好きな面接官と話が盛り上がったらしい。

ところで、以前開催された日英協会の理事会でクローニンの「城砦」について熱い思いを込めて言及された理事がいらした。久し振りに耳にするクローニンの名前に懐かしく胸が熱くなった。「城砦」を通してウェールズ地方のことや炭鉱町のことなど、一冊の本は私にイギリスの文化や歴史、社会について多くの知識を与えてくれた。主人公のアンドルー・マンソンの真摯な生き方に高校生の私は深く考えさせられもした。

「秘密の花園」に始まり、最近ではカズオ・イシグロ氏やサラ・ウォーターズ氏の作品も面白い。今私が読んでいる本？それは柏書房から出版されたデボラ・ラッツ著「ブロンテ姉妹の抽斗～物語を作ったものたち」である。本とは不思議なものである。ページをめくるとそこにはブロンテ姉妹が紡いでいる日々の生活の中に入り込んでいる私がいる。そんな私のイギリス文学を巡るひそやかな愉しみはまだまだ続きそうである。

(理事 岩下雅子様/志學館大学人間関係学部特任講師(図書館学))

④ エッセイ【2】

Memory of my language study abroad

I did not like English in my school days. However, it is fun now to study English. When I was in the first year, I participated in a homestay and English study programme in London organised by my university. It was the trigger for my serious interest in English.

In classes at the language school, I was shocked at and envied the speaking fluency of students from other countries, for it was very difficult for me to express myself in English at that time. It was very regrettable, so I have been studying English hard since then.

I gradually got used to and enjoyed class work and conversation in class, and enjoyed myself a lot out of school as well. I rode the London eye, saw a musical, went shopping at Camden Town, visited Stonehenge and Salisbury Cathedral, and enjoyed afternoon tea as well. I will never forget the clean and elegant streets in England.

The food was also very good. I was served delicious breakfast and dinner such as pizza and meat dish every day by my host family. I also enjoyed eating out. On one occasion, however, I 'made a mistake.' When I ordered fish & chips, I found the word Cod only on the menu, so I ordered chips as well. I did not know that chips were included in the menu, so I ended up with two chips!

I talked with my host family every evening, about what I did at school and after school. When conversation became difficult for me to understand, they kindly drew pictures and helped me to understand what they meant.

They were very kind, and I enjoyed talks with them a lot.

The three weeks of my stay in London passed quickly, but it was a very meaningful and rewarding time for me.

After the programme in London, I studied harder at university, and got a teaching licence in English

I now work for a local government office, but am continuing to study English. The English study in England has changed my views of life and the world.

(青年部 久保瑛帆)



⑤ イギリスひとくちメモ

～アフタヌーン・ティー～



豪華なアフタヌーン・ティー（中央）とシンプルなクリーム・ティー

イギリスにティーが導入されたのは17世紀の中葉で歴史はそれ程古くはない。しかし今では押しも押されぬ国民的飲料である。

中でも格式高く伝統を誇るのが、フィンガーサンドイッチ、スコーン、ペイストリーと一緒にいただくアフタヌーン・ティー。その発祥はイングランド中部にあるベドフォード公爵邸 **Woburn Abbey** だ。ヴィクトリア朝の初期、産業革命などによる生活習慣の変化に伴い遅くなった夕食までの、小腹の空いた気怠く憂鬱な時間を紛らすために第七代公爵夫人アンナ・マリアがティーと一緒に軽食や菓子を摂り始め、その習慣が貴婦人達から中産階級、庶民へと徐々に広まったという。

もう一つ、リッチなティーに、やや質素で鄙びた風情ながらもクロッティド・クリームやジャムを添えていただくクリーム・ティーというものがあり、こちらも頗る美味である。

豪華で優雅なアフタヌーン・ティーとシンプルながら味わい深いクリーム・ティー。いずれも一度は現地で味わっていただきたいティーである。

(写真・文責: 酒瀬川純行)

～ 今後の予定 ～

「平成30年度 理事会・総会・講演会・懇親会」

開催日：平成30年10月27日（土）

於：鹿児島サンロイヤルホテル

（鹿児島市与次郎 1-8-10）

【鹿児島日英協会 事務局所在地】

〒890-8504

鹿児島市紫原1丁目59-1（志学館大学内）

TEL: 099-812-8501 Fax: 099-257-0308

Email: jbskagoshima@yahoo.co.jp

URL: <http://jbsk.jp/>